

毛綱毅曠:建築家プロフィール

毛綱毅曠（1941－2001）は釧路市出身の建築家です。彼の作品は国内外で絶賛を得ています。1985 年に、釧路市立博物館と釧路市湿原展望台の設計で日本建築学会賞を受賞しました。彼のデザインはその独創性で有名で、建築家としての独特のスタイルで釧路の自然環境の特徴を調和したものです。

釧路市湿原展望台

釧路市湿原展望台における毛綱毅曠の作品は、同湿原周辺で見ることが出来るヤチボウズに着想を得たものです。冬が来るたびに凍土によってスゲの根が少しずつ持ち上げられて地表に現れ、年を重ねて浮き坊主頭のような奇妙な形となります。このヤチボウズのように、展望台は、湿原地に浮かぶ船のように見えるよう意図されています。エレガントな曲線を描いた、洞窟のような建物の内装は、同湿原地の中心的要素を象徴するものです。

釧路市立博物館

釧路市立博物館は、タンチョウが翼を広げ雛鳥を抱いている形を表現しています。交互に組まれた屋根のデザインは、同博物館に隣接する春採湖周辺の起伏のある丘陵地のイメージを取り込んでいます。1 階、2 階、4 階には常設室があり、各フロアは二重らせん階段でつながっています。

釧路フィッシャーマンズワーフ MOO と EGG

釧路フィッシャーマンズワーフ MOO は、豊富な魚と、美しい海への親しみ、また人々が集まる場所という市の象徴を具体化したものです。幣舞橋に隣接するウォーターフロントとして、多くの方に豊富な地元の海産物を楽しんで頂ける場所となっています。また、MOO に隣接する通称 EGG では一年を通して花と緑に触れることができ、地元の方からも親しまれています。

釧路市立幣舞中学校

釧路市立幣舞中学校は、卒業生が決して忘れない特徴的な学校になるよう、デザインされました。建物の最上部には 7 本の虹をあしらったアーチがあり、日光がステンド・ガラスの窓を通してホールの床まで差し込むようになっています。中心にあるらせん階段はやさしく迎え入れる雰囲気を出しています。この特徴的な曲線でのデザインは、学内の廊下まで続いています。この学校は博物館とあわせ毛織建築の代表作と呼ばれています。